

様式1(主な取組)

活動指標名	講習会等開催回数				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名	-				R2年度			2,501	未着手	<p>安全安心まちづくり講習会を令和3年2月9日に開催予定(参加申込者53名)であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止となった。</p> <p>地域安全マップ指導者講習会等を5回開催する予定であったが新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止となった。</p>
実績値	4回	5回	5回	7回	0回	7回	0.0%			
活動指標名	-				R2年度					
実績値	-	-	-	-	-	-	-			
活動指標名	-				R2年度			2,501	未着手	<p>進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果</p> <p>令和2年度は計画値7回としていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催を見送ったため実績値は0回となった。</p> <p>なお、ちゅらさん運動ではその他事業も実施しており、令和2年末の刑法犯認知件数は5,998件と18年連続して減少していることから、本運動全体の効果と考える。</p>
実績値	-	-	-	-	-	-	-			
活動指標名	-				R2年度					
実績値	-	-	-	-	-	-	-			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和2年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> 県内外から安全なまちづくりに関する専門家の講師を招聘し、より効果的な犯罪の未然防止の観点を踏まえた講習会を実施する。 引き続き、地域安全マップコンテストを実施し、地域安全マップの作製を促進することにより、子ども自身や学校関係者による通学路等の安全点検を促す。 						<ul style="list-style-type: none"> 子どもの安全や防犯に対する関心が高いことから、犯罪心理学・青少年健全育成等を専門とする講師を予定し、53名の参加申込があったところだが、県独自の緊急事態宣言を受け、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止となった。 地域安全マップの作成を促す「地域安全マップ指導者講習会」については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止となった。地域安全マップコンテストについては予定通り実施し、子ども達や製作を支援される先生方は、限られた時間や行動制限の中、45点の作品応募があった。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

- ・安全なまちづくり講習会の講師を確保する必要がある。
- ・地域安全マップ指導者講習会の講師を確保する必要がある。

○外部環境の変化

- ・安全安心まちづくり講習会の主な対象である防犯ボランティア等は高齢の方も多いため、参加のしやすさを考慮し、web端末等の調達や操作が不要な参集開催を予定していたが、県独自の緊急事態宣言を受け、実施が困難となった。
- ・新型コロナ感染拡大により講習会等の実施が困難となった。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、感染予防に最大限配慮し、また受講対象者が参加しやすい環境での開催方法が求められる。

4 取組の改善案 (Action)

- ・新型コロナ感染状況に配慮し、開催時期や開催方法を検討・工夫した上で、より効果的な犯罪の未然防止の観点を踏まえた安全安心まちづくり講習会を実施する。
- ・引き続き、地域安全マップコンテストを実施する。また、新型コロナ感染状況に配慮し、開催時期や開催方法を検討・工夫した上で「地域安全マップ指導者講習会」を実施し、地域安全マップの作製を促進することにより、子ども自身や学校関係者による通学路等の安全点検を促す。

様式1(主な取組)

活動指標名	研修会等開催回数				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	2回	9回	6回	7回	6回	10回	60.0%	2,634	やや遅れ	犯罪被害者等が必要な時に適切な場所で途切れることなく支援を受けられることができるように、社会全体で支える必要がある。そのためには、被害者等が置かれた状況について講演等で周知を図り、被害者を支える為の知識を普及する必要がある。研修事業（参加総数78名）、弁護士相談や啓発イベントを実施した。
活動指標名	—				R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	—	—	—			
活動指標名	—				R2年度			2,634	やや遅れ	進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 令和2年度は計画値10回に対し、新型コロナウイルス感染拡大の影響で6回実施となっており、「やや遅れ」である。 平成29年度から（公社）沖縄被害者支援ゆいセンターへの委託事業として研修を実施している。支援ボランティア養成研修では、受講者からボランティア登録に繋がっている。 市町村出前講座では、犯罪被害者等の現状や相談対応のロールプレイを実施する等市町村相談員等の技能向上に寄与した。
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	—	—	—			
	—	—	—	—	—	—	—			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和2年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、犯罪被害者支援の総合窓口を本課に設置し、連携する各相談機関に関する最新の情報収集に努め、相談者からの問い合わせを適切な相談機関へ確実に繋げるようにする。 犯罪被害者等を社会全体で支える気運の醸成を図るため、講演会等広報啓発活動を実施していく。 犯罪被害者支援に携わる関係機関等の相談員の専門性を高めるため、各市町村で出前講座を開催し、内容に相談者への対応を入れて、充実強化し引き続き実施していく。 						<ul style="list-style-type: none"> 当課に設置している総合窓口において、各相談機関と連携することで、相談者からの問い合わせを適切な相談機関へ繋げるよう努めた。 令和2年度は犯罪被害者週間啓発イベントを実施し、広報啓発活動を行った。 （公社）沖縄被害者支援ゆいセンターへの委託事業としてボランティア養成研修及び市町村出前講座を実施した。被害者等が置かれた状況についての認識を深めるとともに、支援者向けの講義も行い、市町村相談員等の専門性を高めるための内容として充実強化した。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・ 犯罪被害者等がどの機関・団体等に相談しても、必要な情報・支援等が受けられるよう、相談員のノウハウの蓄積等、研修の充実を図るとともに、市町村の支援体制の強化が必要である。

○外部環境の変化

・ 刑法犯認知件数は減少しているものの、犯罪被害者等が抱える困難な状況は様々であり、各相談機関の連携が重要である。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・ 犯罪被害者等が必要とする支援は精神的なサポートから経済的な支援など多様な分野にまたがるとともに、相談窓口での不適切な対応による二次的被害を未然に防ぐなど、相談員の資質を向上させることが求められており、市町村相談員の研修機会の充実に努める必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

- ・ 犯罪被害者等を社会全体で支える気運の醸成を図るため、引き続き講演会等広報啓発活動を実施していく。
- ・ 犯罪被害者支援に携わる関係機関等の相談員の専門性を高めるため、各市町村で出前講座を開催し、内容に相談者への対応を入れて、充実強化し引き続き実施していく。
- ・ より効果的で実効性のある新たな施策を盛り込んだ「沖縄県犯罪被害者等支援条例(仮称)」の制定に向けて取り組む。